

第56回 宇宙科学・探査小委員会 議事要旨

1. 日時：令和5年7月25日（火） 9：00－11：00

2. 場所：宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

常田座長、大島委員、関委員、永田委員、山崎委員

(2) 事務局（宇宙開発戦略推進事務局）

風木局長、坂口審議官、渡邊参事官

(3) 関係省庁等

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課

上田課長

池田室長

鈴木室長

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）

佐々木理事

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所（ISAS）

國中所長

藤本副所長

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構国際宇宙探査センター

山中センター長

宮崎計画マネージャ

4. 議事要旨

(1) 宇宙基本計画を受けた宇宙科学・探査分野の対応方針

この6月の宇宙基本計画改定を受けた、JAXAの宇宙科学研究所の、宇宙科学・探査分野の対応方針について、資料1を用いて説明があった。

委員からは、以下のような意見があった。

（○：意見等）

○海外ミッションへの参加について日本の科学者コミュニティの希望をしっかりと取り込んでいきながらすすめるべきではないか。ISASの調整機能に期待したい。

○火星本星探査については、2040年の有人探査に向けて段階的に着実に進めて欲しい。

○深宇宙の探査に向けた半永久電源の開発については委員会としても応援したい。

○月面の科学の推進にあたっては、FS（フィージビリティ・スタディ）からフロントローディングに移行する際に、開発のメインとなるプレイヤーが変わってくるのでよく連携して進めて欲しい。

○有人と圧ローバーの検討状況については次回小委員会での報告をお願いしたい。

○アルテミス計画を最大限活用して宇宙科学分野としての貢献を期待したい。

(2) 海外主導大型探査計画への中核での参画の検討について

JAXA から、海外が主導する大型の探査計画への参画の検討状況について報告があった。

委員から、工程表について以下のような意見があった。

(○：意見等)

○科学面での期待は高い。是非、米国の研究者や企業と連携して進めて欲しい。

(3) 宇宙科学・探査ロードマップの改訂について

JAXA から、宇宙基本計画改定も踏まえた、「宇宙科学・探査ロードマップ」のフレームワーク改訂案について、資料2を用いて説明があった。

委員から、工程表について以下のような意見があった。

(○：意見等)

○海外主導ミッションの中型計画規模での参加について、日本の基幹ロケットの活用はどう位置付けられているのか。

以 上